

〔科目名〕 経済導入演習	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目												
〔担当者〕 権克裕、國方明、巽一樹、 七宮圭、橋本悟（あいうえお順）	〔オフィス・アワー〕 各教員より別途指示があります。	〔授業の方法〕 講義・演習												
〔科目の概要〕 <p>1年次の春学期に「経済学基礎論」で経済学の入門的基礎固めが終了したみなさんは、これから経済学のさまざまな専門科目を学んでいくことになります。経済学が取り扱う問題はきわめて多岐にわたっており、その内容も高度です。したがって、将来どのような方向を目指して学習を進めていくのかをある程度見定めておかないと、大海原の中を無駄に漂流する如くなる恐れがあります。本演習は、目前にどのような世界が広がっているかを少しでも垣間見てもらうために準備されています。言い換えれば、本演習は経済学科の専門科目群を学んでいくための動機付けの役割を担っています。</p> <p>さまざまな専門分野を持つ5人の担当者が、それぞれの専門分野に関連するトピックで演習を行うことにより、学生諸君の知的好奇心をできるだけ高めることを目的にしています。各担当者は3回の演習を担当し、ローテーションをすることによって合計で3回×5人＝15回の演習が行われます。なお、担当者の担当順序はクラスによって異なります。</p>														
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>経済導入演習は、各教員の専門分野の入門編として授業が展開されます。内容は、2年生以降の専門科目と関連するものも多いため、今後の各自の履修モデルの構築(授業科目の選択)に多いに役立つはずですが。</p> <p>また、2年生秋学期以降は、経済演習が始まります。経済演習では、各教員の専門分野を基に、学生が演習の所属を自ら決めていきます。その決定の際に、経済導入演習の授業内容は参考になることが多いと思います。</p>														
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>経済導入演習で展開される各教員の専門分野の入門編の授業を通じて、2年生以降、学生が主体的に履修モデルを決定し、経済演習Ⅰの所属決定に際して、ゼミの内容について理解した上で、自発的に決定できるようになることがこの科目の目標です。</p>														
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>「マイクの音量」などについて改善・工夫を行います。</p>														
〔教科書〕 <p>各教員より指示があります。</p>														
〔指定図書〕 <p>各教員より指示があります。</p>														
〔参考書〕 <p>各教員より指示があります。</p>														
〔前提科目〕 <p>特にありません。</p>														
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) <p>各教員が3クラス統一の基準で評価し、教員毎の評価を合算して、全体の評価とします。課題や評価方法は教員ごとに異なりますのでご注意ください。</p>														
〔評価の基準及びスケール〕 <table border="0"> <tr> <td>評価</td> <td>得点比率</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>80% ～ 100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70% ～ 80%未満</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60% ～ 70%未満</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>50% ～ 60%未満</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>			評価	得点比率	A	80% ～ 100%	B	70% ～ 80%未満	C	60% ～ 70%未満	D	50% ～ 60%未満	F	50%未満
評価	得点比率													
A	80% ～ 100%													
B	70% ～ 80%未満													
C	60% ～ 70%未満													
D	50% ～ 60%未満													
F	50%未満													

担当教員： 権 克裕	<p>〔テーマ〕 財政学入門 政府の経済活動である財政について、基本から説明します。</p>
	<p>〔オフィス・アワー〕 授業中にお知らせします。</p>
	<p>〔演習概要〕 政府の経済活動である財政は、経済活動の中で、非常に大きな役割を担っています。この演習では、財政の基本的な仕組み、租税、予算、国債等の説明、地方財政等について説明し、テーマに沿って出題する課題を考えることで財政に対する理解を深めて貰います。</p>
	<p>〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) レポート課題で評価します。詳細は3回目の授業中に説明します。</p>
	<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業は、科目の概要にもあります通り、今後の履修モデルや2年生秋学期から始まる経済演習Ⅰの選択に関して、概要を示す役割を担っています。 私の演習を通じて、現在の経済学的な(特に財政学的な)課題について、解説しますので、学生の皆さんには、経済学の理論だけでなく、幅広く社会に関心を持って頂ければと思います。</p>
	<p>〔実務経歴〕 各教員の実務経験を活かし、具体的な経済活動の場を見学し、現実感を持って経済活動を理解したり分析したりすることに興味を持ち、経済学への学習意欲を高めることを目的とした授業です。</p>
	<p>〔教科書〕 ありません。授業は配布するレジュメに沿って進行します。</p> <p>〔その他〕</p>
担当教員： 國方 明	<p>〔テーマ〕 <small>さいていとりのひき</small> 裁定取引の理論とその応用</p>
	<p>〔オフィス・アワー〕 場所は525号室です。日時は525号室の前に掲示します。</p>
	<p>〔演習概要〕 國方が担当する3回では、裁定取引の理論という経済理論を教えます。各回の主な内容は次の通りです。 第1回：まず裁定取引の理論を構築する際の前提を紹介し、次に裁定取引の定義を紹介し、第3に裁定取引の帰結を紹介し、最後に裁定取引の前提と現実との整合性を考えます。 第2回：第1回で考えた前提を手がかりに、裁定取引の理論が現実になり立ちやすい財・サービスと、裁定取引の理論が現実になり立ちにくい財・サービスを議論します。 第3回：裁定取引の理論を、為替レートの決定理論(購買力平価説)に応用します。経済学基礎論教科書の第13章に、購買力平価説が載っています。</p>
	<p>〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 私は皆さんを、授業内における活動・貢献に基づき、各回10点満点(3回合計30点満点)で評価します。具体的な評価項目と配点を、担当する1回目の授業で伝えます。なお評価項目と配点どちらも、3つのクラスで共通しています。</p>
	<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 やむを得ない場合を除いて、欠席しないでください。もし、やむを得ない理由で欠席するならば、後日欠席届を提出してください。</p>
	<p>〔実務経歴〕 各教員の実務経験を活かし、経済学科の専門科目群を学んでいくための動機付けとそれぞれの専門分野に関連するトピックで演習を行うことにより知的好奇心を高める授業です。</p>
	<p>〔教科書〕 該当なし。</p> <p>〔その他〕 該当なし。</p>

担当教員： 巽 一樹	〔テーマ〕 総需要と総供給
	〔オフィス・アワー〕 講義前後
	〔演習概要〕 本演習の目的は、経済の短期的変動について理解することにある。経済活動は景気拡張と景気後退を経て変動する。日本では、高度成長期のもとで景気拡張を実現した一方で、バブル崩壊、リーマンショック、新型コロナウイルスの感染拡大によって、不況を経験した時期がある。本演習では、総需要と総供給のモデルを使い、GDP や一般物価水準が変動する原因について検討し、政府や中央銀行はどのような政策を立案すべきか考察する。
	〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 各回における e ラーニングの達成度(7 点×3 回=21 点)及び最終レポート 9 点の合計 30 点満点で評価する。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教科書の知識を鵜呑みにせず、疑問点があれば、積極的に質問いただきたい。
	〔実務経歴〕 該当なし。
	〔教科書〕 N. G. マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー入門経済学 第3版』東洋経済新報社、2019 年。 ※「経済学基礎論」で購入済み。
〔その他〕	
担当教員： 七宮 圭	〔テーマ〕 経済学のための確率入門
	〔オフィス・アワー〕 509 研究室。曜日・時間は研究室前に掲示します。
	〔演習概要〕 統計学やファイナンスなどの経済学の科目で必要となる確率の基礎知識について講義します。
	〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 各授業終了前に実施する確認テスト。 病気等により欠席した場合は欠席届を提出してください。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 資料と黒板を使った講義を予定しています。 黒板の文字を書き写すことが目的ではなく、講義の内容を理解することが目的となります。
	〔実務経歴〕 なし。
	〔教科書〕 なし。毎回、資料を配布します。
	〔その他〕 なし。

担当教員： 橋本 悟	〔テーマ〕 さまざまな産業を見る
	〔オフィス・アワー〕 初回授業でアナウンスします。
	〔演習概要〕 以下の公益事業について概要を見ていく。これらの産業を見ながら産業や市場の違いを確認するとともに、産業政策の重要性についても学習する。 (第1回) 航空産業を見る。技術革新による航空機の発展と戦後の航空政策について学習する。 (第2回) 電力産業を見る。自然独占産業としての特徴と近年の自由化の概要を学習する。 (第3回) 通信産業を見る。90年代からの規制緩和で大きく成長したその経緯を学習する。
	〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 課題の提出 (詳細は授業中に説明する)
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 特になし。出欠はとらない (評価の対象ではない) ので、欠席しても欠席届は提出しなくて良い。
	〔実務経歴〕 なし
	〔教科書〕 なし (レジュメを配布する)
〔その他〕 なし	